谷川俊太郎と〈こども〉
～詩集「すき」の分析を通して～

5年 ●●
附属指導教員 ●●

目的

今なお幅広い分野で活動している谷川俊太郎。「ことばあそびうた」以来、児童詩を発表し続けている谷川にとっての子どもとはどのような存在なのか。私が小学校１年生の頃から読んでいる2000年代に出版された「すき」という詩集を題材に、詩の表現や配列から分析する。

詩集「すき」について

作者は谷川俊太郎、挿し絵は和田誠。初版2006年。
理論社から児童詩集として出版された。
本詩集は、5章で構成されている。

谷川俊太郎について

1931年東京都杉並区で生まれる。
読売文学賞、萩原朔太郎賞、朝日賞、小学館文学賞、日本レコード大賞作詞賞など数多くの賞を受賞。
1952年「二十億光年の孤独」を刊行し、高い評価を得てデビュー。現在も活躍しており、詩作のほか、絵本やエッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広い分野で活躍している。

研究の視点・手法

全体の流れを分析した後に、詩を1篇ずつ細かく分析し、その結果をもとに
①文字の表記、内容などから想定される読者年齢層を考察。
②先行研究より文字の表記（ひらがな）から表される児童詩を考察。
③表現や内容、詩の配列から読者に何を考えてほしいのか、意図されることや谷川にとっての子どもはどのような存在なのかを考察。

結果・考察

①詩集「すき」に使われる文字の種類について

この詩集は子供向けの詩集ではあるが、谷川が想定する読者層（年齢層）について、使用される文字種の観点から考察した。

章	文字の表記
第一章「すき」	簡単なカタカナとひらがなのみで書かれた詩ばかり。
第二章「ひとつのほし」	「さわる」から漢字が用いられ始める。三年生以降に習う漢字にはルビが振られている。
第三章「はみだせこころ」	小学校の校歌に関する詩で、一年生から六年生まで全学年が読めるよう低学年で習う漢字が使われている。
第四章「まり」	漢数字とカタカナが僅かに用いられているだけで、ほとんどひらがな詩である。
第五章「ひとりひとり」	第四章の反動のように積極的に漢字とカタカナが用いられ、三年生以降に習う漢字にはルビが振られている。

これらから言えること

実際の読者層が子どもから大人までであったとしても、ルビの振られていない漢字が、二年生までに習う漢字であることやひらがなを主に使っていることなどから、文字の表記の観点からは、谷川は小学生を想定してこの詩集を出版したと考えられる。

②先行研究から学んだ、ひらがなで表される児童詩

先行研究である中村三春先生の論文「序説･現代芸術としての谷川俊太郎の詩　―ひらがな詩・翻訳・「私性」―」の「２．翻訳とひらがな詩」の章では、ひらがな表記について以下のように記載されている。

「・・・*年齢としては子供とは言えないような者にも到来するところの、根源的な原郷からの離脱を語るものという理解へと導かれる。*」

「*ここでひらがなのもつ原初性（radicality)が、離別・出発という自体の本質的な原初性を担保するものである。そこに登場する子どもは、いわば原初的な子どもであり、実際の子どもに限定されることはない。*」

「*だからこそ彼のひらがな詩はしばしば、理性では割り切れないような、秩序以前の混沌、ジュリア・クリステヴァの用語を用いれば、ル・セミオティーク（le semiotique 原記号体＝記号の象徴体系以前の係争中の状態）にも近い何者かを噴出させる。*」

これらから学んだこと

本来、私たちは言葉では表せない混沌とした思いを持っている。しかし、他者に伝えるためには存在する言葉に置き換えなければならない。漢字は表意文字であり、文字そのものに意味を持つため、読み手は想像力を働かせることができず、言葉の幅が狭まる。これを谷川は、型にはめられた大人のイメージを漢字で表した。これに対してひらがなは、表音文字であり一字一字には意味を持たないため、意味をほどく特性を有する。これにより、ひらがなで表された言葉は本来の思いに近い状態であり、読み手の想像力を伴って言葉の幅が広がる。このひらがなの特性を活かして、谷川はひらがなで詩を書いたと考えた。

③各章の内容について

各章がテーマとしている事柄は何かについて考察した。

第一章：「自己」、「存在」、「可能性」がテーマ
… 自己を出発点として、気持ち、存在、生死、可能性、時間を主題にした詩となっている。人間の出発点を表現。

第二章：「人間、生命」がテーマ
… 自然、生命の循環などが自己を取り巻く世界の中で、言葉を得て触覚等の五感を通して少女（自己）が成長していく流れを表現。

第三章：「学校」がテーマ
… 校歌を題材として、学校等の幼い子どもと自己の関わりを表現。

第四章：「二面性」「他人（社会）との関わり」がテーマ
… 例えば「まり」と「まりまた」といった題で構成。「また」には「又は」という意味が込められており、本来の役割である状態のときには「また」は使われておらず、「また」があるときには、私たちが思うその物の役割ではない。つまり、ここでは他人（社会）との関わりにおいて、相反する二つの方向性（二面性）を表現。

第五章：「人生の振り返り、そして未来へ」がテーマ
…「誕生から成長」や「時の流れ」を通して人生を振り返り、他人の人格の肯定、そして未来へ思いを馳せる心を表現。

以上より、この詩集は幼い子どもが周りから影響を受けて成長していく過程が表現されていると読み取ることができる。一方、別の側面として、第三章を軸に、成長過程における対局的な過程を対比させた構成になっているとも言える。すなわち、第三章での校歌は卒業式などで歌われることから、幼さからの卒業を表現しているとも言え、この第三章を折返し点として、第一章の人生の出発と第五章の人生の振り返り、第二章の自然との関わりと第四章の人間（他人）との関わりといったものが対比されて表現されている。

まとめ

この詩集は、使われている文字種や取り上げている事柄（小学校など）から、谷川は主に読者層として小学生を想定していると考えられるが、一方、生死、人生、心、戦争、貧困、地震、愛、価値観や存在など、人それぞれ捉え方が違ったり人間の本質に関わるテーマを扱っていることから、老若男女問わず読むべき作品であるともいえる。また、この詩集から「年齢に関係なく子どもも大人も同じように、これらの奥深いテーマについて考えてほしい」という思いが受け取れた。

今後の課題

以下の事項について今後深めていく必要がある。
・谷川にとっての子どもの存在とはどういうものか。
・配列なども含めた詩の表現分析。
・一年／二年で習得する漢字がルビ付加の境界になっている理由。
・他のひらがな詩集でも今回の研究でわかった結論と同様の傾向があるのか、その共通性や関連性。

【参考文献】
1．谷川俊太郎、山田馨共著　「ぼくはこうやって詩を書いてきた　谷川俊太郎、詩と人生を語る」株式会社ナナロク社　2010年
2．中村三春著　「序説・現代芸術としての谷川俊太郎の詩：ひらがな詩・翻訳・「私性」」北海道大学文学研究院紀要(160) 2020年

【謝辞】本研究を進めるにあたり、奈良女子大学文学部の●●先生にご助言を頂きました。深く感謝申し上げます。

資料１
ルビを振っていない漢字の例↓

漢字	用いられている言葉	何年生で使う漢字か
女、子	女の子	ともに一年生
間	そしていつの間にか 人間	二年生
出	はみ出せこころ とび出せこころ	一年生
父	父はアザラシ	二年生
名、前	名前はまだない	名は一年生 前は二年生
耳	耳で	一年生
足	足で	一年生
学	あそんで学び	一年生
知	なんで知ってるんだろう？	二年生
食	食べて	二年生
教	教えてもらう	二年生
歩	子どもが歩いてゆく	二年生
聞	子どもが聞いている	二年生
広、場	広場	ともに二年生
馬、車	馬車がくる	馬は二年生 車は一年生
絵、本	夢の絵本が読めるから	絵は二年生 本は一年生
夜	夜はこわくない	二年生

資料２
「まり」

まり

もしぼくがまりだったら
ころがっていってしまうだろう
ころころころころころ
すみれをかるくふんずけて
くりのいがはとびこえて

どこへいくのかしらないけど
きっとおかをのぼるだろう
たぶんおがわもわたるだろう
ころころころころころ
のんびりせかせか

もしぼくがまりだったら
ぼくはへんなまりだろう
ころころころころころ
ころがるだけの
ちきゅうみたいにまるいだけの

ありんこはじょうずによけて
ころころころころころ
だれにもそらになげあげられず
だれのてにもうけとめられず
いつかあなぼこにおっこちるまで

資料３
「まり　また」

まり　また

もしわたしがまりだったら
まりーってよんでほしい
おおきなこえで

きのうあなたはさがさなかった
のいばらのしげみのなかの
わたしを

だからさけんでほしい
わたしはじっとうごかずに
あなたのこえをきいている

みつけられるのをまっていると
そよかぜがわたしのまるみを
なぞっていく

こころのなかでわたしははずむ
わたしによくにた
つきにむかって